

会議録

会議の名称	平成29年度 第6回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成30年2月21日（月） 午後7時から午後8時30分
開催場所	保谷庁舎 別棟A会議室
出席者	委員：赤澤委員長、廣瀬副委員長、有賀委員、岸上委員、西田委員、山本委員、島田委員、田邊委員 事務局：栗林文化振興係長、圓田文化振興係主事
議題	1 平成29年度 第5回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）について 2 西東京市文化芸術に関するアンケート調査（案）について 3 その他
会議資料の名称	【配付資料】 資料1 平成29年度第5回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案） 資料2 西東京市文化芸術に関するアンケート調査（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>《開会》</p> <p>1 平成29年度第5回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、事前配布後の議事録の修正点について説明。 <p>○委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席者の名前が抜けている。 <p>○事務局：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お詫びするとともに修正させていただく。 <p>○委員長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事録については、他に意見がないため、確定とさせていただく。 <p><全員承認></p> <p>2 西東京市文化芸術に関するアンケート調査（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、アンケート調査結果について説明。 <p>○委員：</p>	

- ・52ページの「関心度の分類」で直接鑑賞することを大切に思う人のうち、市内・市外で鑑賞している人よりも、市外でのみ鑑賞している人の方が多いことが意外だった。
- 事務局：
 - ・過去一年間の行動について聞いているため、たまたま活動してきたことも要因としてあると考える。
- 委員：
 - ・前回の説明でもあったが、アンケートの回答率が良かったのはなぜか。
- 事務局：
 - ・7年前は約3割ほどだったものが、今回はほぼ5割ということである。
- 委員：
 - ・回答率を上げるために工夫した点はあるのか。
- 事務局：
 - ・開封していただくことを促すようボールペンを入れている。
 - ・文化振興のアンケートにおいて5割まで回収できるのは非常に高いと思う。
- 委員：
 - ・97ページの保谷こもれびホールは用途も利用者も市内の他の施設とは異なるため、比べるべきではないと改めて思った。
- 事務局：
 - ・直接鑑賞したことがない方は極端に「どれも利用したことがない」の数が増えるのも客層の違いが出ていると思う。
- 委員：
 - ・「どれも利用したことがない」は市外のみ利用したことのある人も含まれるのか。
- 事務局：
 - ・その通りである。また、目的を文化芸術に限定しているため、他の施設で文化芸術を目的に使うこと自体が少ないことも分かる。
- 委員：
 - ・アスタ市民ホールの4.7%は鑑賞する場所ではないことが分かる。
- 委員：
 - ・7ページの性別に関する記述がグラフと整合しない。
- 事務局：
 - ・修正させていただく。

○委員：

- ・ 9ページの居住年数に関する質問は10年未満が細かく分類されているため、10年未満の合計値を示した方が他の年数と比較できるのではないか。
- ・ こもれびホールなどの施設は居住地で分析すれば動線が分かってよいのではないか。

これより副委員長による進行

○委員：

- ・ 38ページの「その他のかたちでかかわりたい」が多いのは、どんなことに関わりたいと思っていると想定できるのか。

○事務局：

- ・ ここにない選択肢であるが、何かしらつながっておきたいという気持ちが出ているのではないか。

○委員：

- ・ アンケートでは明確に見えなかったが、上手く今後活用できるとよい。西東京市の文化のサポーターのような形ではないか。

○委員：

- ・ 68ページで「音楽性、演劇祭、映画祭、美術展等、文化的なイベントの開催」が最も多く、ポピュラーな文化を望んでいることが分かる。市の文化行政では下野谷遺跡など少し違う視点のものが盛んなようだが、ポピュラーなものを充実させていくべきではないか。

○委員：

- ・ 45ページの子どもの文化芸術体験については、全ての取組みが大事であると見て取れる。

○委員：

- ・ 関心がない人も大切であると考えているようである。逆に子ども達の文化体験から関心に向かせる手立てもあり得る。

○委員：

- ・ 47ページの「対話による美術鑑賞」の中身を知らない方が多いと感じた。説明文も不足していたのではないか。全体的に情報発信が必要であると感じた。22ページにあるように年代やその他の属性に合わせて告知した方がよい。

○事務局：

- ・ 年代に応じた受け取りやすい情報発信が必要だと感じた。
- ・ 説明も丁寧にすべきだった。評価もされている取組みであるため、逆に認識していただければ活動が広がることも期待できる。来年度も継続予定である。
- ・ 来年度から新しい学習指導要領になることも合わせ、学校との調整が必要である。

○委員：

- ・ボランティアも相当な時間を割いていることも改善しなければ、担い手不足になるのではないか。

○事務局：

- ・ボランティアは現在3期生まで募集をしており、41名の方に登録いただいているが、全員が同じように参加しているわけではない。
- ・何回も学習や練習を重ねながら育成までには10か月程の期間を要する。時間帯によっても参加しやすい条件が異なるので、学校施設だけでなく、高齢者施設向けなども合わせて活動の幅を広げていければと検討している。

○委員：

- ・ボランティアはどのように募集しているのでは。保護者に呼び掛けると効果的なのではないか。

○事務局：

- ・今までは学校を通してチラシを配布している。
- ・募集して人が増えることはよいことだが、研修等の変な大変さと活動の幅を広げた場合も考慮して募集していく必要がある。

○委員：

- ・何でもボランティアに頼るのではなく、予算をかけてスペシャリストを養成することも大事ではないか。その方が事業の継続にもつながる。

○事務局：

- ・ボランティアというアートミーの組織について、社会教育やゆめこらぼと協力いただきながら検討しているところである。

○委員：

- ・美術館賞の事業に関連して、小学校4年生は伝統文化を学習することになっており、国の予算で友禅体験ができる。西東京市では2校には行ったことがあるが、市内の小学校全てがそれを把握しているのか。申し込み順で実施する校数も限られているが、金銭的な負担はないため、小学校長にも知っていただきたい。子ども達の関心も高まる。

○事務局；

- ・他の取組みでも校長に知っていただくことで取組みが広まった例もあるので、校長会などを通じてお知らせしていきたい。

○委員：

- ・授業参観の一環としても保護者と一緒に参加してもらい、よい機会になっている。

○事務局：

- ・学習指導要領として、「対話による美術鑑賞」は学校側としてどう捉えているのか。
- 委員：
 - ・アクティブラーニングは新しい取組として進められており、「対話による美術鑑賞」の取組みが自分で考えること、意見交換をした上で考えることなどの方法がマッチングしていると感じている。
- 副委員長：
 - ・アンケートについて追加すべき分析などはないか。
- 委員：
 - ・アンケートの回答で実際に文化活動を実施している人がどのくらいなのかは分かるか。
- 事務局：
 - ・23ページの間17で現在、何らかの文化的な活動をしている人は約2割、過去に活動した人を含めると約4割である。
- 委員：
 - ・文化活動を実施した人の回答を分析すると、施設に関する要望など、より核心的なことが分かるのではないか。
- 事務局：
 - ・統計的にも問題ないため、分析させていただく。
- 委員：
 - ・活動している方の自由記述を抜き出しても面白いと思う。
- 委員：
 - ・「対話による美術鑑賞」は市として重視していかなければいけない取り組みだと感じる。もっと予算化を含めて考えていただけないのか。
- 事務局：
 - ・予算化は検討の余地があるが、現在小学4年生を対象にしており、取組みを広げるためにはアートみーるの活動も充実していく必要がある。ただ予算を増やすだけで解決できないこともあるため、周知方法や活動の幅も含めて検討する必要がある。
- 委員：
 - ・まだ認知度も少ないようだが、経験するとかなり評価が高くなるようである。体験できるクラス数も限られるため、中長期的に周知も含めて取り組まなければいけない。
 - ・事業を開始した当時はマスコミ等にも取り上げていただいたが、また発信力が弱くなっている。予算だけでなく、普及を進めるための工夫が必要だと思う。
- 事務局：

- ・美術館がない環境でも身近に美術を感じられるだけでなく、コミュニケーション力なども向上する取組であり推進していきたいと考えている。学校側の理解も得ながら、今後の方向性を決めていきたいと考えている。

○委員：

- ・子どもに対する取組は文化に関心のない人でも、関心が高くなる傾向にある。子どもへの文化はおおくの関心を得られること、情報発信を強化していくことを強調できる方法はないか。

○事務局：

- ・第1章に調査概要のほかに調査結果の概要をまとめて記述させていただく。
- ・その中で、心の健康につながること、直接鑑賞する大切さ、文化が地域へ愛着につながるなどが見えてくるようにしたい。

○事務局：

- ・最終的なアンケートの分析を加えて、早めにご報告したい。

○委員：

- ・市が推進したい取組のみをクローズアップした見せ方にはしないようにしていただきたい。

○事務局：

- ・今年度の委員会は最後になるが、委員の任期が7月までのため、来年度の会議でまたご報告させていただく。
- ・先日、市民会館のその後の対応について、中央図書館、田無公民館については耐震化補強するとし、老朽化が進んでいる市民会館については平成30年度末に閉館する対応方針案が決定された。
- ・そのため、活動の場所を確保することを前提に官民連携による方針を示し、必要な規模や機能について、市民等に説明しながら決めていきたいと考えている。

3 その他

○事務局：

- ・アンケート調査について、追加調査をした上で改めて報告させていただく。来年度の日程については4月、5月あたりに第1回の開催するよう調整してご連絡する。

以上

《閉会》